

## 集荷業の現況

集荷部長 坂田 秀一郎

昨今の古紙事情は、中国の景気拡大に救われる形で需給のバランスがとれている格好となっている。又、製紙メーカーの競合にもいつも翻弄されて、古紙業界は舵の無い船に乗っている様で安心して商売が出来ない。海外輸出は不意に取引が断絶する恐ろしさも持ち合わせている。その様な状況下であるが、直納部はある程度の採算が取れている。

我々集荷はと云うと、産廃業者や無償リサイクル方式その他、法外な価格の提示があり、戦々恐々としているのが現状で、非常に疲弊している。

現に今年3月末には13社が廃業を余儀なくされている。集荷部の中でも、色々考え方や意見の違いがあり、集荷部のあり方が問われている。いずれにしても集荷の人達が組合費を毎月払って、これでいいんだと納得して頂ける様、頑張つて行く所存である。

近々製本工組との会合もあると思うが、会合では集荷の実情を良く説明したいと考えている。兎に角、この苦境を自分自身で乗り切る事も大切である。

自分のお得意先には実情を良く説明して、利潤の確保をしていかねば、結局お得意様にも迷惑が掛かるのだから、毎月そんなにべら棒な請求させなければ、現在の古紙価格では採算が取れない事は相手方が良く知っているとと思う次第である。

## 事業部活動方針

事業部副部長 朝倉 行彦

事業部の業務内容は主として組合員のサポート、ひいては組合員そのものの発展に繋がるものとなっております。樫原部長、坂内副部長、山口副部長、朝倉の四名で運営されております。

現在は、保険事業、高速カード、ガソリンカード、講習会、許認可等の取得、新年会・納涼会の運営等を行っております。なかでも今年度は、講習会の開催、許認可等の取得への支援に重点を置き、積極的に推進して行く予定です。

また、『廃棄物再生事業者登録』に関しては東京都環境局の担当者に来ていただいて7月7日(金)に組合会議室で説明会を開催いたしますが、定員(27名)以上の申し込みがありました。これにおいては直納組合員の登録はほぼ完了しておりますが、集荷組合員の登録はまだまだ少なく、是非、この機会に善処して頂たくお願い致します。また、異業種からの参入も多く差別化の一つと成ると思います。

事業部は諸々のサポートに努めて行く所存ですので、ご提案等については積極的にご連絡頂けますようお願いしております。

また、組合の発展、組合員のサポートとしてお手伝いしたいと思っておりますが、皆様のご協力が無くては発展は望めませんので、ご理解の上、今後とも宜しくお願い申し上げます。

## 広報部活動方針

広報部長 清水 弘允

広報誌は年6回発行されます。今回の暑中号が248号になりましたので、我々の広報誌は実に41年以上の長きにわたり発行されている事になります。

ここまで続けられた先輩の努力を振り返る時、現広報部メンバーとしては、その歴史を汚さないよう頑張らなければいけないと、自然に力が入ってきます。

広報誌の中身を見ると、二つに大別出来ると思います。一つは事務的な連絡事項で、支部活動、各種会議催事等のお知らせ、そして古紙価格などのお知らせです。もう一つは、組合員参加と言いまじょうか、組合員に原稿を書いてもらう形の誌面作りです。これが広報部にとつて腕の見せ所のはずですが、苦戦しています。つまり、なかなか原稿が集まらないのです。

自分の経験でも分るのですが、文章というものは書き慣れないと確かに億劫です。ちゃんとした文章にしなければと構えてしまい筆が進みません。ある程度、書き慣れると、へんな構えがなくなり、それ程億劫に思わなくなります。その境をなかなか越えられないのです。

「私の履歴書」についても、書いて欲しい方は沢山いらっしゃいます。古紙業界での経験は勿論の事、他業界での経験をされた方々からお話を聞かせて欲しいと思います。古紙業界の常識が他業界での非常識のような例は、沢山あると思います。なかなか自分で文章にする決心が付かないようでしたら声を掛けてください。口述筆記でも構いません。自薦他薦も問いません。是非ご一報ください。

以前、広報誌の何処が読まれているか、アンケート調査をした事があります。その結果は、特定箇所が読まれている訳ではなく、満遍なく読まれていることが分りました。長年発行されているだけあり、その辺は此方の予想を超え、組合員である読者はバランスの取れた読み方をされていました。

しかし何時までも、広報部の仕事が広報誌の発行だけであつてはいけないと思います。総会の資料にも書きましたように、組合の窓口となり、広報誌以外でも業界紙との付き合い、組合ホームページの活用など時代の変化に対応し、組合活動の情報発信源として、またスポークスマンとして、他業務部と連携した活動をして行きたいと思えます。ご協力の程、宜しくお願いいたします。

### 静岡県紙業協会家庭紙部会との

#### 三団体懇談会を開催

〔平成18年6月23日(金)午後2時30分〜〕

於(富士工業技術センター大研修室)

出席者：静岡県紙業協会家庭紙部会20名、

東京都製紙原料協同組合7名、

静岡県製紙原料商業組合6名

計33名(内事務局3名含む)

#### 三団体代表挨拶

#### 井出純一郎会長(静岡県紙業協会家庭紙部会)

時々ではあるが、勉強会等で集まった時の話題の中で原料供給が厳しいとの話を聞くが、これからは皆さんともつと連絡を取り合つて、親密にしていかなければなら

ないと思つている。

家庭紙の製品状況は後ほど説明があるが、大手物の製品値上げが発表された事から、一時的に、パックになり、殆んどメーカーさんの在庫はゼロの状態になった。大手さんの値上げは8月から9月になると思うが、我々の方も本当に再生産可能な価格になるようよう、取り組んでいきたいと思つている。

今、我々は勉強会を行つているが、大分製紙さんの工場見学等も計画している。これから色々な形で勉強会をしながら、皆さんも安心して取引が出来るような体制にしていきたいと考えているので、ご協力の程宜しくお願ひしたい。

#### 近藤 勝副理事長(東京都製紙原料協同組合)

皆川理事長が来られなくなつたので、急遽だが替わりにご挨拶させていただきます。

古紙物の製品市況については、前回の2月の会合でお話していただいたが、ここに来て大手さんも値上げに踏み切り、段階的に着々と実つてきていると感じている。製品市況の立て直しについては我々も応援するので、是非とも頑張つていただきたい。

我々も品質面で難しい紙が増えてきているので、メーカーさんときちつとした情報交換を行い、また、メーカーさんには支払条件の改善を引き続きお願ひしたいと思つているので宜しくお願ひしたい。

#### 鈴木清久理事長(静岡県製紙原料商業組合)

古紙市況は、昨年は中国に大幅に向けられて量的にカバーされたが、価格的には一部の地域では仕入価格が上がつている。しかし、従来のように余るといふことは無くなり、価格的にも最近は落ち着いてきている。

皆さんとは長年一緒にやつてきているが、他から付き合いきれないような事が入つてくると、色々ご迷惑を掛けてしまう。今後はこのような会合でザックバランなご意見を伺つたり、我々が持つている情報をメーカーさんが活用していただくなどして、今後も続けていければよいと思つている。これからは益々厳しい状況となつていくと思われるので、ご協力の程宜しくお願ひしたい。

#### 古紙市況

#### 古紙全般について(近藤勝副理事長より)

関東商組32社の統計では、5月末主要三品合計で仕入が対前年同月比で106.2%、出荷103.2%で、在庫率が9.1%となつている。在庫率の10%割れは2002年11月以来であり、一桁台の低い水準となつている。

品種別の仕入では、新聞が108.2%、雑誌106.6%、段ボール104.7%ということで、5月に悪天候が続いた割には集荷はまずまずであつたが、行政回収が一層進展しているのも一因であり、チラシの混入量も増えてきている。

輸出の方は今年1〜4月累計で1,225,373トン(対前年同期比114.7%)と前年を上回る出荷量となつており、問屋の在庫は昨年同様殆んど無い状態が続いている。

#### 家庭紙原料について(宍戸隆家庭紙委員長より)

発生状況だが、産業古紙全般の5月はGWという事で例年減少するが、今年も悪かつた。6月に入れば発生が少しは持ち直すかと思つていたが、相変わらず少なく皆さんの感では前年対比で15%

くらい減っているようである。その原因は大手の製本・印刷工場の内製化が進み、下請けにあまり出さなくなったことから、市中の工場の仕事量が減少している。また、大手からの発生は行き先が決まっています、ロットがまとまることから洋紙に向けられているので、家庭紙さん向けが尚一層少なくて感じられる。

OA古紙は後で高橋委員より説明があるが、3、4月は発生が多かったが、5月、6月も通常量は発生している。

家庭紙原料の需給状況だが、我々の扱う産業古紙は少なかったが、家庭紙メーカーさんの一部ではフル操業をされたところもあると聞いているが、しかし、我々の問屋では意外にバランスしていた。その要因としてはOA古紙の消費率が増えたのではないかと感じていた。また、裾物古紙の新聞・雑誌の値段と同一価格帯になったので、問屋側としては人手をかけて選別するよりもJ-MIXとして輸出したり、雑誌として出していることで業者在庫は非常に少なくなっている。

我々組合でも41社の統計を取っているが、昨年5月の家庭紙向け在庫は9,300トンだったが、今年5月は5,400トンと半減している。今後の見通しだが、メーカーさんは岳排に入るので我々の在庫は増える筈だが、今までとは違い輸出という方法があるので、さほどは増えていかないと思っている。また、注意が必要なことは、洋紙メーカーのDIP設備増強が発表されており、その原料買い付けが一部で始まっていて、この秋口から一層活発になる。従って模造、色上、ケント、チラシの類はかなり影響が出てくると思っている。DIPは来年1月に稼動するところが多く、これだけで新聞・雑誌で50,000トンが必要になると云われているので、家庭紙さんの原料にもかなりの影響がある

と思っている。

#### OA古紙について(高橋弘明委員より)

オフィス古紙の発生状況は先ほど説明があったように、今は落ち着いている状況にある。

東京都23区の統計では、事業系と家庭系ごみを合わせて紙ごみが年間約350万トン発生しているが、その内の事業系の約116万トンの一部が家庭紙メーカーさんや洋紙メーカーさんの原料等に向けられている。その内から輸出にまわったのは、今年1～4月累計でオフィスミックス・上物を含め90万トンが東京・川崎から出ており、価格はミックスが12円/kgとなっている。

また、事業系の116万トンの中には機密書類として出ている物が含まれているが、その量はハッキリしていない。過日、王子製紙(株)江戸川工場さんが機密書類の使用を大々的に発表したのが、その使用量は月300トン、500トン(日量13～20トン)と云われており、家庭紙メーカーさんへの影響は大きいと思う。また、この量は始めた時の量であり、今後どのように増えていくのかは判らない。このように機密書類については、直接溶解の形で洋紙メーカーさんに向けられる量がこれから増えていくと思っている。

#### 製品市況について(久保田隆二春日製紙工業(株)代表取締役)

製品市況については皆さんもチラシ等でご存知の通り、間違いなく再生紙物の198円という特売品は無くはないが少なくなつた。しかし、製品価格の中途半端な値上げから販売数字が減るという気がかなりな状況が続き、上がったところ、上がらなかつたところと、中途半端に一部上がらなかつたところの三様に分

かれたが、一部上がったところも、また戻るのではないかと絶えず心配していた。

そんな中で王子さんが休み明けの5月23日に新聞発表を行ったので、我々も困っていたので良かったと思っていたが、安いうちに買っておこうということから仮需をよんでしまった。その発注量も今までの2～3倍、多いところは5倍も入った訳だが、担当者は店に商品が無くなる困るので必死で注文を出していたようで、勿論大手さんの在庫も結構無くなつていた。

テレビや新聞等で石油や副資材の高騰による製品価格の値上げを発表したので、消費者は高くなるという社会現象から値上がりする前に安い物を買っておこうとした訳であり、安い物だけが売れて相変わらず製品価格は上がらなかつた。

再生紙物は70%のシェアをもっている。大手のルルプ物はチップやパルプが大幅に上がっており、パルプは50ドルから620ドルに上がった。また、燃料や副資材も上がっている事からここで値上げをしなければ、自分で自分の首を絞めてしまい大変な決算となってしまう状況にある。

#### 意見交換 [MIIメーカー側 GII業者側]

質問(M) 家庭紙の原料が足りないと聞かすが、不足しているのか?

答(G) 現在メーカーさんが使用している家庭紙原料は、ケント、模造、色上、ミックスペーパー等であるが、先ほどの話にもあったように産業古紙のケント類の発生が少なくなっている。

また、家庭紙メーカーさん向けケントより少しグレードの高い洋紙メーカーさん向けケント類の需要が高

まってきた。もう一つは、込頁、ミックス古紙の海外からの引きが高まっており、輸出先も多くなってきた。選別に手間がかかる色上は雑誌として出したり、ミックスとして輸出しているので、手間のかかる家庭紙さん向けは減ってきていると思われる。

家庭紙メーカーさんからの注文も、従来のセント類から込頁、ミックスにシフトしてきているが、価格は多少輸出の方が高いので輸出に向けられてしまい、我々が家庭紙メーカーさんに納めたいと思っても出来ないのが現状である。また、メーカーさんから多少高い価格で注文されても、集める事が出来ないため直ぐに対応出来ないのが現在の状況である。

**M** 我々は注文したら古紙が入ってくるという前提で考えており、それが入ってこないとなると困るので心配している。コンスタントに入るようにしていただきたいが、家庭紙に目を向けているのか、輸出に目を向けているのか、我々は非常に疑問を感じている。

**G** 我々も長い歴史のある国内メーカーさんと取引する事を重点に考えているが、需給のバランスによると思っている。発生が非常に多くて、家庭紙メーカーさんがこれ以上使えない時は輸出に向けるし、発生が少ない時は15トン車でも10〜12トン程度となり、月のトータルでは数十トンの減少となる。

**G** 静岡の業者の状況だが、5月頃までは順調に入ってきたが、6月に入って発生が落ちてきた。今まで数百トンの在庫を持っていたが、メーカーさんの注文も若干増えていることも事実で、注文に合わせて納入したため、在庫が徐々に減少して今は持っていない状況で、このままメーカーさんが順調に使えば6月末には在庫がゼロになると思う。

これから岳排に入るので、その分貯めておこうと思う

ているが、静岡は東京や神奈川のように輸出が利かないので、どうしても富士市のメーカーさんを頼るようになり、足りなければ足りないように、増えたときは売り込む事を絶えず考えているので、需給バランスが問題となっている。

**質問(G)** 仮僞の反動はないのか。

**答(M)** 平均出荷の5割増しの量が家庭に在庫された程度なので、さほどは心配していない。

しかし、各家庭でもつたいないとか、価格が上がるので節約しようと考えられたら2〜3割は減少するだろうが、今回はそのような心配は無いと思っている。

**M** 今回の会合では皆さんから値上げの話があるものと思っていたが。

**G** 東京都製紙原料協同組合は直納問屋と集荷の方で構成されている組合だが、この会合に向けての意見交換では、集荷の方からガソリンも上がっているのでは、是非値上げをお願いしてくれと言われた。しかし、我々としては僭越ではあるが、今の家庭紙さんの原価計算を見た場合、とても無理と判断して家庭紙さんが価格復元をした時にお願いとしまして、今回はやめようという事になった。我々は国内メーカーさんを優先しているが、輸出業者が高値で買われるので苦慮している。

**質問(M)** シュレッダー物が多いのか。

**答(G)** 個人情報保護法の影響でシュレッダーにかけるところが増えているが、従来の家庭紙メーカーさんはミリカッターを嫌うところが多かったので、クレーム等が殆んど起きない輸出に向けており、ノーカーボン、裏カーボンがシュレッダーの中に多少入ってもOKである。このようにシュレッダー物が多くなっているので、

どうしても家庭紙さん向けは少し減っていると思う。

**質問(M)** そういう物が入っても大手の洋紙メーカーさんは使うのか。

**答(G)** 国内の直接溶解に向けられた物は、我々も直接開ける事は無いので良く判らない。しかし、洋紙メーカーさんも板紙メーカーさんも買われている。

**質問(M)** 輸出先は中国の家庭紙メーカーなのか。

日本の家庭紙メーカーではグレードに問題がある。

**答(G)** 我々も発生元にはミリカッターではなく繊維質の長いヌードルでお願いしているが、個人情報の問題からどうしてもミリカッターが多くなってしまう。

**質問(G)** 富士のメーカーさんに納めている込頁類の中に、機密書類の現状をとどめないミリカッター物や破砕物が今後も増えていくと思われるが、富士のメーカーさんはそのような古紙の調達をどのように考えているか。また、家庭紙メーカーさんでは混入割合に問題があるのか。

**答(M)** 歩留まりについてはハッキリした事は判らないが、それほど気にもしていない。

**G** 個人情報の影響でミリカッターは今後も増えていくと思うが、家庭紙メーカーさんが使用しない時は、増えた分は段ボールごと機密書類に向けられていくと思う。

**質問(M)** そのように細かくした物は価格的にはどうなのか。

**答(G)** シュレッダーだけなら今店頭で7円である。輸出向けは20%まではクレームがつかない。

質問(M) 家庭紙向けには、現状ではある程度は混じっているという事なのか。

答(G) そういうことである。

質問(M) 最近破砕物が多くなっているが、その中に圧着シールが入っているので、シールは除去してもらいたい。

答(G) 我々が破砕する場合は除去できるが、排出事業者や一般家庭から出されたものは、そこまで考えていないので除去する事は中々難しい。いかに個人情報を守るかという事に重点がいつてしまっているので、ついシレッダーにかけてしまう。

質問(M) 発生先には禁忌品に対する注意をしないのか。注意しなければ益々増えていくと思うが。

答(G) 発生元には根気よく説明している。ただ、あまり専門的に説明する事は不可能なので、ある程度までお願いしている。常識的に考えて、悪いものはこのようなものであるので除去して欲しいとお願しているが、圧着紙も古紙としては使えないので、別の方法で処理してくださいと言っている。しかし、お願いしている窓口から浸透しきれないのが現状であるので、今後も説得しながら理解を求めていくしか方法が無い。

質問(M) マシントラブルがあったので調べたところ、木綿の類のボロが入っていた。そのような状態になる原料が含まれる事が有りうるのか。

答(G) 一般の原料はそのように絡まる事は無いが、特殊紙のレイヨン系の古紙だと思っ。

以前に扱って繊維が絡まったことがあった。それと不織布もレイヨン系でできているのでそのような事があった

と聞いている。

質問(G) 和紙は大丈夫なのか。

答(M) 溶けにくいのが、大丈夫と思う。しかし、そのようなものが漉き込まれていけば別だが。

M 原料の中身が変わってきて、今まで見たことが無いような原料も入ってくる。これは駄目でこれは大丈夫と見ただけでは判断できなくなってきた。

G よくレイヨンを漉き込んだ紙がある。障子紙もその例の一つだが、あと葉書とかもあり、我々は極力除去するようにしているが、あまり扱った事が無い人は紙だと思ってしまう。

M 銀行預金通帳の表紙もそうだと思う。

M 長い繊維が入っていると、絡まって出てこなくなる。数が少なければワックスを塗るが、量が纏まると大変な問題になる。

G 通常は新しい原料だと気をつけるが、見た目では中々判断できないような物もあり、現場では判断しきれない事もある。

次回開催は平成18年10月25日(水)、午後2時30分より開催。

## 支部便り

〔城北支部〕

### 支部総会開催

城北支部長 黒田 義孝

平成18年4月12日(水)、池袋「地球飯店」にて開催した。宮川茂理事が司会を担当されたが、支部長挨拶の中で昨年10月2日に行われた城北支部30周年行事のお礼と、支部員皆さんのご協力のおかげで一年間無事に過ごせたお礼を述べた。

その後皆川理事長からご挨拶をいただき、議事に入った。

第1号議案から第5号議案までスムーズに承認可決され、乗附孝之監事の閉会の辞で終了した。

今年より、本部理事会、委員会に出席された城北支部の理事には、交通費が支給される事になったが、当面は本部理事会出席者のみとしている。

総会終了後、同会場で竹内評議員の司会で懇親会を行ったが、皆さん中華料理を楽しみながら親睦をはかった。

今までは支部会に出席される方が少なかったが、今期は一層の親睦を図るため、9月には城北支部青年部のゴルフ大会、11月から12月には講演会又は見学会を兼ねて忘年会を、年が明けた1月は組合合同新年会の参加、19年は役員理事の改選期なので、4月〜5月に城北支部総会を兼ねて旅行する予定である。

## 私の履歴書

### 人生をふりかえり

山手支部長

宮崎 勝保

昭和17年の秋、私は荒川の西日暮里に7人兄弟の末っ子として生まれ、母親を5ヶ月で亡くし戦時中で物資が乏しい為、もろい乳で育ちました。

胃腸が弱く入院のくり返しだったとよく聴かされていました。親夫婦が兄弟であつた事から(父の弟が母の妹と結婚) 弟夫婦が私を引き取ると云つたそうですが、10歳年上の長女が自分が育てるからと言つて小学校を卒業すると父母の田舎である新潟県の親戚の所に部屋を借り、2歳の私と二人の兄妹を引取り生活が始まつたそうです。

その苦かつた話はほとんど聴かれませんでしたが、ただ自分だけ学校に行けなかつた事が悔しくて仕方なかつたと後で聴かされました。

発育が悪く5歳頃まで満足に歩けなかつたそうです。小学校入学式前日の夕方、父が自転車でランドセルを買つて来てくれた事、そして中に教科書とノートを入れたら重くてひっくり返りそうになつたのが、今も鮮明に思い出されます。

又小学校・中学校とも朝礼の時は腰に手をあてて左右を見る最前列でした、でも兄妹の助けがあり、なんとか病氣もせずに通学しておりました。

これではと思ひ、中学校の時その学校で一番強いクラブ活動に入り、自分を鍛えようとバスケット部に

入りました。学校は台東区の下谷中学校と云つて東京でも強い方でした。

コートは屋上にある為、私たち1年生は練習といつても毎日屋上にバケツで水を運ぶのと、下に落ちたボールを取りに行く事位でした。その階段の昇り下りで身体が鍛えられ、学校では3年間皆勤賞を貰いました。いかんせん小さな私では、バスケット部では選手は無理でも練習を休まなかつた為3年の最後の試合に途中から出場させてもらいましたが、コートに立つた時は足の震えが止まりません、何をやつたか覚えがない内に試合が終わつてしまいました。

高等学校は郁文館と云い文京区にあります、さすがにバスケット部は無理と思ひ、又一番強い剣道部に入りました、人気があるクラブだけあつて、新入部員は60名位とても道場には入れません、そこで2年部員が夏休みの合宿までに道場に入れる位の人数に減らさなくてはなりません、毎日うさぎ飛びで屋上に行き素振りと柔軟体操です。

1週間もすると2人・3人と退部していく者が出始め、自分より身体の大きい者が負け去つていく・・・それがこちよく皆に絶対負けない最後まで残つてやると云う気持ちになつてきました。2ヶ月すると20数名になり、合宿が始まる頃には15・16名位でした。道場での稽古はさらに厳しかったです。しかし3年間一度も休んだ事はありません、でも選手候補は中学時代からやっている者や、特にセンスの良い者で私は補欠にもなれませんでした。

3年最後の東京都大会の時、選手の1人が怪我をしてしまい私が選ばれました、嬉しくてたまりません。無我夢中でした5人制の団体戦中堅、他の学校

ではポイントゲッターをもつて来ますので私はあて馬でした。

しかし、終わつてみたら私も全勝で優勝してしまつたのです、それから私の人生感は大変わつてきました。物事は基礎の積み重ねと努力そして忍耐、そうすればおのずから道が拓かれる。しかし最近では年を重ねるたびに知識と云う言葉が加わりますが、私には付いて来てくれません。60歳の手習いこれから日々努力していきたいと思ひます。

### 組合員の広場

#### プーチン大統領

副理事長 坂田 秀一郎

毎年8月の終戦記念日の飯倉界限は、ロシア大使館に抗議する右翼の車列で物凄く。

軍歌が響き渡り、けたたましい音がこだまする、その数計り知れない。

飯倉という処は坂の上に坂があり、昔から馬の背と云われている、東京に只一つしかない名所である。東京タワーへ向かつて坂になっていて、飯倉の坂からタワーへは登り坂になっている、面白いところだ。島崎藤村もこの飯倉に一時住んでいて、「飯倉だより」や「夜明け前」を発表している。

右翼の車は菊の御紋章を付け、関東の各県から一斉に集まってくる。茨城県が一番多いのかな？

ロシア大使館は狸穴坂に沿つて山の一角にある。右翼の車はロシア大使館から300メートル地点迄しか近寄ることは出来ない。勿論、日本の警察が防

備している。右翼と警察の小競り合いは年中あり、右翼車はロシア大使館へなるべく近づこうとする。それにしても、ロシアは北方四島及び樺太の返還には絶対対応せず、日本の援助を引き出そうとする態度に切齒拒腕する右翼の気持ちも理解出来る。

今も抗議は凄いけれど、日本愛国党の赤尾敏氏が飯倉の坂上で演説した頃は、それはそれは半端じゃない、鬼気迫る迫力、オーラを感じたものである。日本語、ロシア語で大使館に向かって、大声で野次の罵声は嵐の様である。一般人は恐ろしくて近くへは寄れないのである、本当に恐怖である。

今年もソ連が日本へ侵攻し、領土を取られた日はすごい数の右翼車と機動隊の揉み合いになる。飯倉を中心に国道一号線及び付近の道路の渋滞は物凄いのものだ。

プーチン大統領の来日が決定しても、飯倉のロシア大使館へ来る事は無いと思うが、万一来日が決定した場合は、一ヶ月前から大使館の周囲約2キロは厳戒体制に入るのである。

空家、空ビル、空き地、公園及び道路はどんな小さな物でもしらみ潰しに巡回する。警察官も住民も、物凄く神経質になる。この地区の管轄は愛宕警察と麻布警察で、どちらかというところ、愛宕署か、いずれにしても訪日が決定すると署長は大変だ。

右翼が喜ばないお客さんであっても、何か不祥事が勃発すれば署長は勿論、警視総監も辞任を余儀なくされる。飯倉のこの土地は、ソ連時代からロシアになっても毎年60年間、戦後一度も休むこと無く、抗議の波は続いているし、ロシア大使館が飯倉にある限り、永久に続くのである、一日も早く、北方四島の一括返還を望んでいる。

## みんな藪の中でした

足立支部 サン商事(株)

西内 澄江

昭和二十三年春、戦後の傷は未だ痛みがとれず、霧中の毎日が続く。私は唯々東京が恋しくてホームシックの毎日でした。

父の計らいでアメリカ家庭のメイドの目的で許可が降り、東京在住の切符を手にした。

万歳、飛び立って太陽と握手する。東京は北千住の東町に三畳の隠居部屋を父の友人宅に借りて、急ぎ蒲団と必要な日用品を送った。

十日程で着いた、翌日は父母と弟に別れを告げて東京に単身向かった。

東海道線の「安城」通過は午前六時頃、安城駅の大踏切で父は自転車を下りて何度も大きく手を振っていた。私は窓を開け両手で手を振った、父の姿はもう見えない、落ちた涙は辛かった。

千住東町での一人住まいの夜の生活が始まった、明日からは仕事探しと足は銀座に向いた。

四丁目から松坂屋方面に足を進めた、米兵の多い事日本女性と仲睦まじく、止まっては口よせに負けた日本を間近に見た。

資生堂の先に化粧品を置き、奥に婦人の下着、男性のネクタイ、ワイシャツ、靴下など上等な品揃いのリッチなお店に入り、社長に面会した。

直ぐに採用決定、明日からと、人手に困っていた様子、社長曰く「君のその気迫に負けたよ」肩を叩かれた。捲くし立てた夢中の私に

後まで恥ずかしい思いが続いた。

翌日から男女の下着類の売り場に笑顔で立った。売り場の主任と話し合い、左手一本なら「ワンハンドレッド」三本なら「スリーハンドレッド」と教わり、手の平を広げて二本の指を乗せたら「セブンハンドレッド」三本なら「エイトハンドレッド」と教わり、頭に刻みこみ主任と練習した。

アメリカ兵が女性と店に来て、私の前で止まった、「ハロー」私は、初めて英語で話した、

女性はレースの下着を購入した、私は直ぐに主任の手の平を二本の指を見た、

セブンハンドレッド、三百円のお釣りを笑顔で渡す。私と主任の呼吸の合った上手なこと、上手く行けそうと自信を持った。

閉店後別れ際に「あの呼吸で」と笑顔で別れ北千住駅を降りた。

戦争には無傷の町の様だ、今も古着屋さんだけが頭に残る。母が無理して作って呉れた晴れ着が戦災で灰になった事が……

明日を生きることが先決です。

安城を思い出した、両親と弟は今どうしているだろう、そうだウインドにバットと一諸に飾ってあったアメリカ製の野球のグローブを買ってあげよう、弟の喜ぶ顔が目に見え、父母の大声の喜びが耳に入ってくる様だ。

明日にも社長にお願いして購入し送ろう。多摩川で産湯を使った江戸っ子です、この手で幸福を掴もう。四人で早く東京の空気を胸一杯吸いましょう。

東京も窮乏から復興へと変わりつつの風が吹いてきた様だ、銀座の柳も芽をだした。

## 「今日、この頃」そのⅢ

前事務局長 三澤 康男

「エッ！」と背が冷たくなるような驚きの瞬間は、「アッ！」という間であったが声は出なかった。

「広報新年号」の17ページの計報に二幸商事 前田隆司逝去の報にはビックリであった。

そういえば、昨秋の神宮球場には、早稲田大学の試合に必ず来ていた二幸さんの姿を見る事が無かった。

「神宮へ来るのがとつてもつらいんだあー」と、実は二幸さんがこんなことを言っていたので、「やっぱり」と思った。

あのJR信濃町駅から神宮の杜に出る歩道橋を登り渡りするのが辛いとスタンドで言っていたのを思い出した。

その時は、二幸さんも大分弱っているのに、よく来るなあと聞き流していた。が、しかし、何が二幸さんをして、そうまでして来るのかと聞いたら、そこには、オヤジとムスコの微笑ましいエピソードがあった。

子供の頃、オヤジに連れられてよく来たのが東京六大学リーグの野球観戦であったと云う。

当時はプロ野球よりも人気があり、神宮の芝生の外野席で見た早慶戦が子供心に最高の楽しみであったそう。

壮年になっても変わることなく、有名な早慶6連戦も全部観たと云うし、最近ではリーグの最多通算ホームラン記録を達成した慶応大学の高橋由伸選手(現巨人)の23号目も観たと得意げに話してい

た。

いくら娯楽の少ない時代であったとしても、幼少時代の親父と一緒に行動を共にしたことが、その子にとつて一生忘れられない出来事であり、宝物のような思い出となるものらしい。二幸さんにしてもそうであったのが、なんともいい話である。

さて、最近の例よつて不景気な流れの中に、殺しがあり、失望と絶望の繰り返しのような世の中であり、これはと云つたとつておきのいい話題もない毎日である。

思えば、20代、30代、50代と歳を重ねてくると、まったく思い出に残っていない出来事も多くて、限りある人生であった気もするので、60代頃からマメに物を書く習慣をつけてきたのが、「広報」や「会報」に書いた拙文であったが、現在ではそれがなんと懐かしく、うれしい過去への話であるのが貴い。

自然の恵みがバッグに包まれているようなのがいいエピソードや、数多い人とのめぐり合いが、今とは違つた時間が流れるようで、目の前にある場所が、遠くの方にあるような気がして不思議であり、いいストーリーとなっている。

物事に終わりのないものはありやしない、恋だつて、旅だつて、それが速いか、ゆつたりかであり、ただ唯一終わりの無いのが、寄せては返す波だけだなあ！  
人生の終わりのドンチョウを引いた二幸商事の前田隆司さん、安らかに……

さて、「オケイチャン」こと歌手松山恵子の訃報を知つたのが、昨晚(5月8日)の夕刊紙であった。知らなかつたけれど、もつと年寄りかと思つていたが、

意外にも私と同じ年の享年69歳であった。

今日、この頃の毎日であるが、聞き慣れたTBSラジオ「大沢悠里のゆうゆうワイド」の放送中に、オケイチャンをつらかつたろうに明るい人柄だつたと採り上げていたのは流石であった。

近頃、妙に変な取り合わせの重なる中に、不思議なことに例の撮りだめしていたVTRを観ていると、丁度4〜5年前のものだったが、なんと「今夜は見せまつせ」と云うオケイチャンの出演ビデオが出てきたのにも驚かされた。やはり現在の歌い手には出せない人生の経験からにじむワビ、サビみたいな渋い感じの良さがあるいいステージショーであった。

特に「涙そうそう」を泣きながら唱つていたのが圧巻であつて、改めて、いろいろあつたんだろうと想つてこの演歌歌手の人生が偲ばれて感心致した次第であつた。

二幸さんと松山恵子さんの訃報を機会にして、人はいつまでも夢を失わず、そして元気で勇気をもつて、決して諦めないを糧にして、これからも行くことと思つ今日、この頃であります。

平成18年5月 小満

## お知らせ

平成18年7月会議・催事予定

7月3日(月) 理事会 (pm4時) 組合会議室

7月7日(金) 廃棄物再生事業者登録説明会

(pm5時) 組合会議室

7月13日(木) 業務部長・支部長合同会議

(pm4時) 組合会議室

7月19日(水) 全原連事務局長会議

(pm3時) 全原連会議室

7月24日(月) 古紙関係協議会

(pm3時) 板橋製本会館会議室

7月25日(火) 古紙センター業務委員会

(pm1時30分) センター会議室

〃 全原連役員会 (pm2時30分)

7月28日(金) 古紙センター関東地区委員会 (pm4時

〃)、納涼会 (pm5時30分)

7月31日(月) 古紙センター関東地区委員会

(11時30分) フジロイヤルプラザH

## 【古紙価格】

### 【東資協の古紙4品の標準売値】

6月8日現在(kg)

\* 新聞 6円 (横這い)

\* 雑誌 3〜4円 (横這い)

\* 段ボール4〜5円(横這い)

\* 色上(並)3〜5円(横這い)

## 関東商組の融通(共販)事業

〔平成18年7月度実施の共販価格 (kg当り)〕

〔新聞 古紙〕 11円/kg

プレスもの・店頭価格

〔段ボール古紙〕 10円50銭/kg

プレスもの・店頭価格

## 会議概要

〔5月・6月〕

### 5月定例理事会

〔平成18年5月2日(火)〕

出席理事 17名 於 組合会議室 PM4時

### 〔各部報告〕

**総務部** 当会館2階テナントのロータスさんと、4月

27日に現状の家賃で貸室契約を更新した。

3階の悠和さんは、5月末に現状家賃で更新の予定。

**直納部** 4月11日に本年度第1回目の直納部委員

会を開催し、本年度の方針の確認と、昨年度の会計報

告を行った。また、5月12日には共販委員会を予定

しており、韓国向け共販輸出の現在の状況と今後の見

通しについて検討することになっている。

大手のO製紙とN製紙が家庭紙製品の値上げを発

表したが、家庭紙原料にとっても良い影響を及ぼすも

のと期待できるニュースだ。

3月の古紙輸出量は337,840トンで、前年同月

比116.3%という結果となった。この内86.3%

が中国向けとなっている。

4月に段古紙の国内価格が50銭値上がりし、輸出価

格は5月以降下げ基調で推移している。そのため内

外格差が若干縮んできたと見られる。

5月の関東商組の共販輸出価格は、ダンボール10円9  
1銭、新聞12円、雑誌10円20銭となった。

### 〔品種別市況報告〕

〔上白・特中白〕 上白は、発生は少ないが使用するメ

ーカーも少なくなりつつあり余剰気味。最近では輸出

で対応しているが、問屋在庫は増えつつある。

特中白は、ややバランスしていると思われる。パルプは、

北米産4月積み対日輸出価格は600ドルが中心で、

引き続き値上がり傾向にある。3月積み価格と比較

して20〜30ドルの値上がりで、3ヶ月連続で上昇し

ている。

〔家庭紙原料〕 家庭紙メーカーでは、製品値上げの

ために多少減産しているところもある。そのため家庭

紙原料はやや余剰感が見受けられる物もある。

製品値上げについては、メーカー側の感触だが、今回

は多少の値上げが見込めそうだとのこと。

大手メーカーによる新規DIP設備の稼動に関連し

て、一品色上の需要が秋口から増えてくると思われる。

又、家庭紙原料の需要も増えると思われるので、直納

業者としては、今後は大手DIP向けに方向を修正す

ることが必要となるのではないだろうか。国内向けの

共販という方法も検討すべきだろう。

〔切付〕 3月は発生期ということもあり発生は若干

良かったが、4月に入り例年並みに落ち着いてしまった

ようだ。メーカー在庫は少なく、荷動きは順調。特

更組合との会合は春秋の年2回開催することになって

いるが、最近では定期的な会合が開かれないことが多く

なってしまった。

当組合にとって、特更組合は長く取引関係にあり、大

変大きな比重を占める組合なので、今後は定期的に会合を開催するようにし、相互の意見交換を密にしていきたいと考えている。

【新聞・雑誌】 新聞の3月輸出量は6万トン強を記録した。発生は順調で、国内消費も伸びつつある。ほぼバランスが取れている状態。雑誌は、国内価格より輸出価格の方が良いため、輸出に回されるものが多い。そのため、国内は若干タイトな状況が続いている。

【ダンボール】 発生は順調で輸出も好調。一部の国内メーカーでは、より多く調達するために引き合いを強めているところもあるようだ。

【返本雑誌】 出版物の発行部数は減りつつあるが、返本の発生量はあまり変わっていない。いかに本が売れていないかという証だろう。最近の出版物は、ビニール貼りの表紙や、付録が禁忌品であったりと、その処理には大変困っている。

【オフィス古紙】 昨年の4月は、個人情報保護法が施行された直後で、かなり大量の発生があった。それに比べると今年の4月は若干少なかったが、それでも例年に比較してかなり多かった方だ。輸出は順調。

### 集荷部

※組合に加盟していることのメリットを明確にしてほしいという声がある。組合活動を活性化させるためにも何か具体的な手を打って頂きたいと思う。

例えば「廃棄物再生事業者登録」を行えば、発生元に対して、他業者との差別化をアピールできるのではないだろうか。組合員がこの登録手続きを容易に行えるよう、組合事業として講習会等を開いて頂けないものか。※道交法が改正されて、駐停車に対しての取り締りが以前より厳しくなるという。そのため集荷業者が坪先で古紙を集荷する際に、車を路上に停めておくことが

困難になると思われる。この件について、集荷業務が支障を来さないよう、組合としてその方策を検討して頂きたい。

【広報部】 広報5月号の準備を進めている。新年度を迎えるに際し、各業務部の事業計画・事業方針を広報に掲載したいと考えている。紙面の都合により、5月号は総務部と直納部、7月号は集荷部と広報部、9月号は事業部と青年部の予定で掲載したいと考えている。各業務部の皆さんの協力をお願いしたい。

【事業部】 5月22日に第50回通常総会を予定している。会場の準備は完了した。当日は役員以外の方々にも大勢参加して頂きたいと願っているので、各支部長さんには支部員の方々に声をかけて頂くようお願いする。

【団体共済保険の配当金をお渡し出来ることになった。組合員でこの保険に加入している方は、各支部長より配当金を受け取って頂きたい。】  
【青年部】 5月22日の総会時に、同じ会場の別室で青年部総会を予定している。

### 共販委員会

〔平成18年5月12日(金)〕  
出席委員 18名 於)組合会議室 PM4時

### 皆川理事長

この会議の前に王子製紙(株)東雲研究所へ11名で行き、過日3種類ほどのサンプルを出した結果を聞いてきた。また先の話であるが、2008年まで江戸川工場内に日産50kg程度の小さなプラントを作るとのことであり、組合から出したサンプルの中では紙粉が短時間で処理でき、歩留まりも60%と良いので期待できるとのことであった。

そのように2年後の事であるが、現段階での話はそのようなことであった。

この後、共販輸出について検討しましたが、紙面の都合により割愛させて頂きます。

古紙センター

### 関東地区委員会〔平成18年5月23日(火)〕

PM2時〜 古紙センター会議室

【需給動向】 06/4月 単位トン、( )は対前年同月比、在庫の( )は在庫率

### 【関東商組32社実績】

#### 〔新聞〕

仕入 95,939(113.9%)

出荷 94,488(115.8%)

在庫 10,441(11.1%)

#### 〔雑誌〕

仕入 68,126(107.9%)

出荷 65,308(110.4%)

在庫 8,904(13.6%)

#### 〔段ボール〕

仕入 137,098(100.8%)

出荷 135,612(101.3%)

在庫 12,440(9.2%)

### 〔関東・静岡実績〕

#### 〔新聞〕

入荷 239,379(107.5%)

消費 238,426(102.7%)

在庫 129,508(54.3%)

〔雑誌〕

入荷 138,238(103.9%)

消費 125,426(96.1%)

在庫 59,154(47.2%)

〔段ボール〕

入荷 297,371(99.2%)

消費 315,294(102.3%)

在庫 100,493(31.9%)

〔業者側コメント〕

〔新聞・雑誌〕 関東商組32社4月度の入荷実績は先に提出していた仕入予測より良かった。雑誌の仕入は若干マイナスであったが、その他は対前年同月比で上回っている。5月に入って天候不順が続いており、皆さんにも聞いたが問屋在庫は相変わらずタイトで、貯まった在庫の範囲で出荷する状況となっている。また、7～9月の仕入予測では、新聞が110.9%、雑誌が109.1%と両方とも良い数字が出ている。

〔段ボール〕 4月度の32社集計では仕入・出荷ともマイナスであり、在庫は8.4%と3日を割る数字となっている。

5月に入っても雨が多く、伸びは期待できない状況である。メーカーさんの稼働は順調であるが、入荷が96.3%と悪い。このところ輸出が13万トン～14万トンをキープしているところから、輸出に回っていると思われる。

〔メーカー側コメント〕

〔段ボール〕 4月在庫は86,989トンと大きく減少した。入荷が96.3%と前年比減少していることと、

輸出動向が原因とされている。一方、段ボール原紙の状況だが、3月仮需の影響もあり4月生産はマイナス0.3%の99.7%となっている。このようなことから、入荷が増えなければ調整しながら生産していかざるをえない状況にある。

〔新聞〕 4月入荷は104.8%と順調だったので、在庫も68.7%(対前月比118.4%)となっている。天候不順による減少も予想されるので、樂觀は出来ない。4月の国内生産が99%、1～4月累計は100.9%と順調に推移している。

#### 業務委員会 (平成18年5月24日(水))

午後1時30分～ 於)古紙センター会議室

#### 1. 全国古紙の需給・市況動向(平成18年4月度報告)

詳細は紙面の都合により割愛させていただきます。

#### 2. 集団回収実施団体への感謝状交付(推薦地区委員会)

会 静岡地区委員会、北海道地区委員会

① 菊川市立河城小学校PTA(静岡県菊川市)

② 御前崎市立浜岡東小学校PTA(静岡県御前崎市)

③ 天間北一区町内会(静岡県富士市)

④ 二の坂町1区町内会(北海道滝川市)

⑤ 末広町内会(北海道訓子府町)

⑥ 北美原町会(北海道函館市)

⑦ 若葉第二町内会(北海道登別市)

⑧ 白石中央第三町内会(北海道札幌市)

#### 3. 古紙品質認証制度研究会について

4月28日、古紙品質企画専門委員会において、正式に発足。月1回のペースで開催し、本年12月頃を目

処に制度概要(素案)をとりまとめる。

#### 4. 平成17年度回収雑誌古紙内訳調査結果

詳細は紙面の都合により割愛させていただきます。

#### 6月定例理事会

〔平成18年6月2日(金)〕

出席理事 24名 於)組合会議室 pm4時～

#### 皆川理事長挨拶

5月22日開催の組合総会は、皆様のご協力により滞りなく終了することができ、御礼申し上げます。

昨年までの「組合活性化委員会」に代わる新しい委員会の設置を考えている。人選については検討中だが、組合の今後にとって有益なものとなるよう願っている。本日もよろしくご討議の程お願いしたい。

#### 〔各部報告〕

〔総務部〕 当会館のテナントに関して、3階の悠和さんは5月30日に現状家賃で貸室契約を更新した。

〔直納部〕 大手洋紙メーカーでは、今秋以降のDIP増設が既に発表されているが、更に2社が超大型の塗工紙マシンの新設を発表した。今後DIP原料の需要が益々高まっていくだろう。

大手家庭紙メーカー2社が製品値上げを正式に発表した。これにより、家庭紙製品の市況が立ち直ってくるものと思われる。輸出は、5月～6月は円高及び中国の国内要因により価格が若干下がり傾向にある。そのため、国内価格との格差が縮小してきている。

4月の古紙輸出量は321,575トンで、前月比9.5%、前年同月比106.7%という結果となった。

6月の関東商組の共販輸出価格は、新聞11円91銭、雑誌9円91銭、ダンボール11円22銭となった。

### 〔品種別市況報告〕

〔上白・特中白〕 上白は、メーカーの使用は少なく発生も少ない。弱含みで推移している。

パルプは、対日輸出価格が上昇基調を強めている。北米産NBKPの5月積み価格は、前月比30ドル高の610～620ドル/トンで決着した。ブラジル産LBKPの5月積み価格は590ドル/トンとなった。過去1年間において、LBKPはNBKPより割高だったが、今回価格が逆転する結果となった。6月積みに関しては、NBKPで20～30ドル、LBKPで20ドルの値上げ提示があった。現状は値下がりの要因もなく、先高感が強いと思われる。

〔家庭紙原料〕 大手メーカーがようやく家庭紙製品の値上げを発表した。他の大手メーカーもこれに追随すると思われる。中小の家庭紙メーカー各社は3月から値上げ交渉を行っているが、トイレットロール12ロールを例にとると、50円の値上げ要請に対し20円の値上げ実現、及び、安値販売品の撤廃実現というのがこれまでの状況だ。また採算が取れる程度までの価格には復元出来ない。今回の大手メーカーの値上げ発表が、中小メーカー各社に良い影響を及ぼすよう期待したい。

産業古紙の発生は少ないが、家庭紙メーカーではやや余剰感が見られる。

〔切付〕 産業古紙の発生は相変わらず少ない。5月の連休が明けてからも、発生量が増えるということはなく、低水準で推移している。そのため、メーカーに納める定量を確保するのにも支障が出始めている。価格は変わらず。

〔新聞・雑誌〕 消費は多少は伸びている傾向がある。集荷も順調。輸出は昨年を上回る状況で推移している。全般的にはタイト感が見られる。価格は変わらず。

〔ダンボール〕 6月の関東商組の共販輸出価格は11円22銭で、対前月比で若干の値上がりとなった。輸出が順調なため、国内では相変わらずタイト感が見られる。国内の段原紙メーカーは原料の確保に苦慮しているため、段古紙は強含みといえる。国内メーカーは原紙及びシートの値上げをほぼ達成した。現在は、ケースの値上げを需要家と交渉中といった状況。

〔返本雑誌〕 4月の出版統計によると、発行部数が前年対比93%、返本部数が前年対比100%という数字となった。いかに本が売れていないかという証だろう。最近の出版物は、ビニール表紙やシール付きの物が増えてきているため、その処理に困っている。

〔オフィス古紙〕 5月の発生は4月と比べて多少落ちた。国内は余剰気味だが、輸出が好調なためバランスしている。価格は変わらず。

### 〔集荷部〕

※ 裾物の価格に比べて家庭紙の価格が安過ぎると思う。家庭紙製品が値上げ基調にあるこの時期に、古紙価格も値上げするよう組合として対処して頂きたい。

※ 発生元の稼動が落ちてきている。従来の3分の2程度の稼動ではないだろうか。

※ 上物の価格が裾物並みという低価格の現状では、分別する手間を考えると、そのまま分別せずに「雑誌」として処理することが多くなっている。

〔広報部〕 広報総会号は6月中旬に発送の予定。次

号7月号の発行準備を進めているので、皆様からの寄稿をお願いする。

〔事業部〕 5月22日の組合総会では、皆様のご協力により無事終了することが出来、御礼申しあげる。総会に関わる費用は、予算内で収めることが出来た。

7月3日には、理事会終了後に納涼会を予定している。上野精養軒で6時より開催の予定。大勢の皆様のご参加をお待ちしている。

〔青年部〕 5月22日の総会時に同じ会場で青年部総会を開催した。審議事項は全て原案通り承認された。

〔意見交換〕 〔道交法改正に関して〕 6月1日から道交法が改正されて、短時間の駐車も取り締まりの対象となった。

台東リサイクル事業協同組合では、台東区と交渉して、区から委託された資源回収業務を遂行中である旨の証明書を、警察署に連絡の上、発行してもらった。

大きさはA4サイズで、色は黄色の目立つ物で、運転席の目立つ個所に置くようにした。この証明書があれば、取り締まりの対象からははずされるとのこと。

当組合としても、東京都と交渉して、同様の対処をしてもらうよう働き掛けてはどうか。これが実現すれば、古紙業者の回収業務が円滑に進むだけでなく、組合に加盟していることのメリットにもなるので、組合員増加に弾みがつくだろう。

### 集直正副委員長会議

〔平成18年6月9日(金)〕

出席委員 15名 於 組合会議室 PM4時～

6月23日開催予定の静岡県紙業協会家庭紙部会

との懇談会を控え、組合としての対応を検討した。  
詳細については、紙面の都合により割愛させていただきます。

古紙センター

**業務委員会**(平成18年6月15日(木))

午後2時～ 於 銀座ラフィナート7階

**全国古紙の需給・市況動向**(H18年4月度報告)

全国的に販売、仕入価格とも5月比変化なし。  
詳細につきましては、紙面の都合により割愛させていただきます。

**全原連役員会**(平成18年6月15日(木))

PM4時～ 於 銀座ラフィナート7階

**栗原理事長挨拶** 5月25日第29回通常総会が盛  
会に無事終了した。ご協力頂いた東北協組の皆さんに  
心から御礼申し上げます。新体制にてスタート致しま  
すので宜しくお願い致します。

**1. 新正副理事長及び新理事報告**

(新正副理事長)

理事長 栗原 正雄 (関東商組)

副理事長 矢倉義弘(近畿商組)

鈴木清久(静岡商組)

石川喜一郎(中部商組)

皆川昇(東京都協組)

深田 和利 (関東商組)

専務理事 長崎 隆男 (員外)

(新理事)

長谷川裕一(北海道商組)、須長利行・寺門隆夫・  
福士淳治(関東商組)、清水弘允(東京都協組)、  
赤染清康(神奈川県協組)、服部茂樹(中部商組)、  
立川義純(近畿商組)、松野博文(香川県商組)

**2. 近代化推進事業委員(平成18・19年度)**

経営革新委員会：瀧本義継委員長・梶野隆史副委員  
長・玉木康晴副委員長

需給委員会：大久保信隆委員長・新井勝夫副委員長  
IT推進委員会：山室泰洋委員長・近藤國宏副委員  
長

渉外広報委員会：藤川達郎委員長・須長利行副委員  
長・棚橋和利副委員長

**3. 古紙再生促進センター関連報告**

評議員・理事の変更

(新任評議員)

上河潔(日本製紙連合会)・清水謙之(商工組合中  
央金庫)田代直也(三菱製紙株)・長崎隆男(全国製  
紙原料商工組合連合会)

(退任評議員)

石原彰(三菱製紙株)・大西知彦(商工組合中央金  
庫)渡邊恒(日本製紙連合会)・高木勢司(全国製  
紙原料商工組合連合会)

(新任理事)

新井英一(株デルエフ)・倉田泰(日本製紙株)・安本  
昌司(東海、ルプ株)

(退任理事)

倉林喜一郎(有倉林商店)・福永行雄(日本製紙  
株)・牧田邦雄(東海、ルプ株)

**4. 業務委員会報告(6月15日14:00)**

平成18年7～12月の古紙消費計画発表。

7～9月計画(対前年同期比)

段ボール99.6%、新聞101.6%、  
雑誌96.7%

10～12月計画(対前年同期比)

段ボール97.7%、新聞103.3%、  
雑誌101.5%

7～12月(対前年同期比)

段ボール98.6%、新聞102.4%、  
雑誌99.1%

**5. 近代化推進事業関係報告**

詳細は紙面の都合により省略させていただきます。

**6. [各地区報告その他]** 栗原理事長より総合的な報  
告がなされた。

※ メーカーへの売価は各地区とも変化なし。

※ 需給関係についてはどの地区もタイトな状況。

※ 輸出货量は昨年と比較し増加している。1～4月累  
計で前年比115%となっている。

※ この春に段ボールと新聞の売価が上がったが、仕入  
価格もスライドして上昇している。

※ メーカー在庫については、新聞はどの地区も問題  
は無いが段ボールは非常にタイトな状況が続いて  
いる。

※ 集荷については、多い地区と天候不順から少ない  
地区とがあつたが、1～4月累計で対前年比約2  
5万トン増加している。年間ベースでは70～80万  
トン増が予測されるので輸出も増えると思われ  
る。国内メーカーはこれまで在庫を増やすこと  
が出来なかつたが、DIP増設計画もあり、特に新  
聞の在庫を増やすと思われる。

※ 行政の入札に高値が続き、危機感が高まっている。

現在のタイトな状況から入札価格の高値が広がり、仕入価格の高騰につながっているため、全原連として対応を検討していきたい。

**直納部委員会**

〔平成18年6月16日(金)〕

出席委員 名 於)組合会議室 PM4時〜

**〔品種別市況状況〕**

〔上白〕 上白は製紙メーカーさんで使用するところが少なくなり、余剰感があるが輸出で対応している。

〔切付〕 発生量少ない。製本屋さんには暇なところが多く、仕事量は相当落ちていると思われる。メーカーさんの原料在庫状況は多くは無いが、生産に支障が出るほどではない。

〔新聞・雑誌〕 全原連役員会でメーカーさんの消費計画がでた。新聞の7〜12月消費計画は3%の増量計画となつている。輸出は昨年を上回る量がでており、タイト感から仕入れも強含み。  
雑誌も前年と変わらない消費計画となつているが、輸出も出ているので問屋在庫も少なくなつている。  
〔段ボール〕 発生が少ないのかメーカーの引きが強い。価格は変わらず店頭10円50銭だが多少裏もある模様。  
〔残本〕 発行部数が少なく、4月は対前年比7%の減少となつている。1997年がピークでこの時の発行部数の20%減となつている。最近は見栄えをよくする為ビニールが増えており、また、CDなども増えて処理に困つている。

**海外及び国内メーカー視察研修について**

昨年はベトナムのメーカーさんを訪問したが、引続

き今年も実施するので候補先を検討したい。  
候補地案

- ※ 大王製紙(株)(四国本社)来年年明け1泊2日で
- ※ APPニボー工場(中国) 今年秋口2泊3日です。

**関東地区委員会**

〔平成18年6月20日(火)〕 pm2時

古紙センター会議室

**06.7〜06.12月消費計画(関東・静岡)**

**【需給動向】06/5月 単位トン、**

( )は対前年同月比、在庫の( )は在庫率

**〔関東商組3社実績〕**

**〔新聞〕**

仕入 88,649(108.2%)

出荷 89,243(105.5%)

在庫 9,287(10.4%)

**〔雑誌〕**

仕入 65,785(106.6%)

出荷 67,534(103.3%)

在庫 7,589(11.2%)

**〔段ボール〕**

仕入 134,410(104.7%)

出荷 135,895(102.2%)

在庫 9,749(7.2%)

**〔関東・静岡実績〕**

**〔新聞〕**

入荷 252,125(109.6%)

消費 252,125(109.6%)

在庫 168,746(71.3%)

**〔雑誌〕**

入荷 131,800(104.7%)

消費 138,961(105.9%)

在庫 55,209(39.7%)

**〔段ボール〕**

入荷 305,239(104.5%)

消費 291,091(99.4%)

在庫 101,137(34.7%)

**〔業者側コメント〕**

〔新聞・雑誌〕 この十数年にわたつて需給に関する統計を私なりに集計してきたが、今年3月はこの10年間で新聞用紙が最も売れたようである。5月の発生量だが東京近郊では20%ほどダウンしたが、チラシが10%のダウンと小さく、トータルで12〜13%のダウンとなつている。このことから見てチラシが今後増えていくと思われる。

古紙センター

**静岡地区委員会**〔平成18年6月26日(火)〕 11時

30分〜 於)フジロイヤルプラザH

〔地区委員会の新体制〕 (敬称略)

委員長 堀内和馬(興亜工業(株)) 6月21日

付

副委員長 上田慶太(日本製紙(株)) 7月1日付

委員 大越春司(株) リソース東海7月1日

付

伊藤幸夫(日本製紙(株)) 7月1日付

〔堀内新委員長挨拶の中から〕 委員長を仰せつかりました。何かとご協力のほどよろしくお願いします。

昨日の日経新聞で7～9月の産業景気予測が出ていたが、残念ながら紙・パルプ業界は「曇り」であった。チラシ・パンフ等を使用する印刷用紙の需要は堅調に推移。家庭紙のしている値上げが一部浸透しそうだが、原料高を補いきれない。製紙各社は割安な燃料への転換を急ぐ。秋には主力の印刷用紙の再値上げが視野に入りそうだが、とのコメントがなされている。

### 【市況動向】

#### 〔第一部会〕上物古紙

産業古紙全般全般は非発生期に入り入荷が低調に推移し、若干タイトな状況になっている。この状況は発生期に入る

9・10月まで続くように思われる。

〔上白〕 発生少ないが使用も少ない。問屋さんは余剰を輸出にまわしているとの事で、現状は若干タイトな状況にある。

〔特中白〕 発生少ないが使用も少なく、現状はバランスしている。

〔板紙ケント・色上〕 非発生期に入り入荷が減少しているが、メーカー使用に変化が無いため、非常にタイト感がでているように思われる。

〔家庭紙ケント・込頁〕 同じように発生は少ない。一部メーカーではフル生産しているところもあるが、大半のメーカーでは現状価格では採算が取れていないという事で生産調整をしているところもあり、現状ではバランスしている。

〔模造〕 家庭紙・ケントと同じ理由でバランスしている。

〔家庭紙色上〕 家庭紙メーカー向けの発生は少なく、價格的にも雑誌・輸出価格より安いいため、余剰分は輸出に回つていると思われる。

〔切付〕 雑誌販売が低調で発生も少なく、洋紙で使っていなかったところが使用されるようになり、タイトな状況が続いている。

#### 〔業者側コメント〕

〔上白〕 一時期余剰があったが、輸出に振り向けたことにより現在はバランスしている。輸出は少しづつでも続けたい。

〔特中白〕 発生が少なく、バランスしている。

〔板紙ケント〕 使用品質により、不足しているものと余剰感があるものに分かれ、バラツキがある。

〔模造〕 発生が少なく、不足気味。

〔洋紙板紙色上〕 洋紙メーカーさんの来年初めからのDIP新増設による手当て不足している。発生が少なく、これから秋口にかけては一層の不足が予想される。

〔家庭紙〕 全体ではバランスしていると思われるが、5月後半のDIPの仮需でフル操業されたメーカーさんは不足していると思われる。

〔切付〕 最近の大手製本・印刷会社の内製化で下請けが減り、市中の回収量が減っている。また、大手からの発生は品質や量が纏まるので洋紙メーカーに向けれど、富士地区の特更メーカーさんはやや不足気味と思われる。

#### 〔第二部会〕新聞・雑誌

〔新聞〕 新聞の4月輸出価格は12.2円、5月が12.0円、6月が11.91円と下落傾向にあり、この影響

もあつてか、発生は先月から大きな変動も無く比較的に順調と思われる。5月のメーカー在庫は68.2%と前年比 + 6.8%となっている。

〔雑誌〕 雑誌古紙輸出価格の4月が11.1円、5月が10.2円、6月が9.91円となっている。5月のメーカー在庫は48.6%で対前年比マイナス12.0%となっている。

#### 〔業者側コメント〕

〔新聞〕 5月のメーカー在庫が255,000トンで前年比 + 30,000トン、在庫率6.7%増となっている。

また、関東・静岡の7～12月消費計画は101.9%となっている。一方、32社の5月入荷88,000トン(前年同月比で108.2%)、出荷は89,000トン(105.5%)で、実数では出荷の方1000トン上回っている。その結果、32社の5月末在庫も10.4%とこの2年半で最低となっている。メーカー在庫がこれだけ増えたという事は、国内メーカーの購入価格が上昇したことと、輸出価格が一時に比べやすくなった事で内外価格差が縮まったため、国内メーカーさんに還流してきたものと思われる。

〔雑誌〕 5月メーカー在庫は109,424トン(在庫率48.6%)と前年比+20,000トン、12%減となっている、新聞とは逆の現象が起きている。関東・静岡メーカーの7～12月消費計画は前年同期比96.4%という数字であるが、前年を下回ることは無いと思う。32社の5月入荷は65,000トン雑誌の国内建値は変わっていないし、輸出価格も一時に比べれば安くなっているが、まだ、内外価格差が歴然としてある。

## 〔第三部会 段ボール〕

先日の関東地区委員会の話では、5月の段ボールは順調であったとの事であった。静岡地区の各社の状況もバツキはあるが、全体的に見ればまあまあ入荷であったと思われる。しかし、6月に入って各社の入荷は少し悪くなっている。

原紙の販売は、5月は前年比約100%であったが、今月に入って天候の影響か、出荷が鈍っており、メーカーによっては操短しているところもある。7月は岳排体転が一週間程あり、そのため「月末には適正在庫の水準になるのではないか。

静岡地区の業者の皆様には、地元メーカーを宜しくお願いたい。

### 〔業者側コメント〕

段ボールは昨年の秋から発生基調がおかしくなってきたと感じている。5月も前年比97%程度で、かなり発生が悪くなっている。6月も引続き発生が良くないが、この原因は大きく分けて3つある。

- ① 社の段ボールの構成比が減り、異業種による扱が増えている。
- ② 天候不順がかなり影響している。6月の悪いのはこの影響によると思われる。
- ③ 段ボールの発生先が変化している。東京でいうと、国道1号沿線に集配センターが多く、発生が集中している。23区内の発生が減ってきている。この地区では、箱ではなく戸配で届けるようになってきている。箱が通販等の影響で小型化し、段メーカーから出る面積・重量は変わっていないだろうが、家庭に入ってしまったと思われる。家庭に入るとどうしても雑がみ化してしまう。

しかし、輸出货量その他を見ると前年より確実に伸びているので、全体の発生はそんなに変化していないと思うし、今後この基調は変わらないのではないかと。国際価格は5月が底値であったと思うが、中国の需要もこれから多少は上向いて行くのではないかと。段ボールの価格は

A・Jとも5%くらい騰がっているので、来年は多分もう少し高くなり、内外価格差は開いて行くと思っ

## 編集後記

我々古紙業者から見て、今回の大手メーカーによる家庭紙価格修正の動きは、大変歓迎されるべき事である。

昨年来、中小家庭紙メーカーは背水の陣で減産を実施し、価格修正に努めてきた。これに大手メーカーが追従せず更なる消耗戦を仕掛けていたら、大変な事態になったであろう。そうなれば納入業者である我々古紙業者も、大きな痛手を被ったかもしれない。

家庭紙は洋紙や板紙と違い一般消費者と直結している点、その価格動向が話題になりやすい。

一般消費者の関心事であると言う事は、マスコミが取り上げる格好の話題と言う事であり、これが事態を更に複雑にする。マスコミは価格の下がる時は余り消費者の興味を引かないから報道しないが、上がる時は一斉に報道する。今回もまさにその例で「25%以上の大幅値上げ」と報じられた。大手家庭紙メーカーのティッシュ(5個パック)1箱の値段は、3年前は70円程度で売られていたのに、現在安いものでは40円程度まで値下

がりしている。従って10円上がっても25%もの値上げとなる訳だ。昭和50年代はティッシュ1箱120円したというのに。

マスコミ報道を受けて、一部消費者は買いために走り、メーカーには一時例年の3倍の注文が入ったと言う。お蔭で再生紙トイレ紙メーカーの在庫は空になり、大手メーカーでも在庫一掃で受注停止日を設けた所もあるようだ。今後、この反動でメーカー出荷が一時低迷するのは避けられないが、その問題を乗り越えて、やっとなんだチャンスを生かして欲しい。

ティッシュペーパーは1924年米国生まれ。日本で生産されるようになったのは40年程まえからで、それまで日本人は京花紙、ちり紙を使っていた。清潔好き日本人の嗜好に合ったのか、日本人の消費量はどんどん伸び、5箱をパックにした販売方法も当たって、現在の消費量は一人当たり年間4キロで、米国の3倍近いそうだ。価格は世界的に見ても最も安く、ニューヨークの3分の1、ロンドンの7分の1程度だそうだ。販売量がどんどん伸びた時代は、少々安くしても数量を伸ばしてカバーできたが、今後はそう言う計算は成り立たない。しっかりと生産計画、付加価値商品を出して価格を維持しないと、生き残れないのではないかと。

我々業界も生き残りを掛けて、古紙マーケットの中で、どこにニーズが隠れているか、刻々変化する業界を、常に観察する必要があるだろう。

広報部長 清水弘光